

【横浜市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

横浜市が今まで取り組んできた 新学習指導要領に基づく教育実践と、最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、「個別最適な学び」と「社会につながる協働的な学び」を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んできた。将来的には児童生徒が自らの学習履歴等の把握・蓄積が進むことが期待されている。

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1人1台端末を活用することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させることが可能となる。端末の効果的な活用による各教科等での深い学びの実現や、学習者のペースや理解度に応じた学習方法の選択など、児童生徒の学びの可能性が広がった。さらに、デジタル教科書等の導入による複線型の学習の中で、GIGA 端末標準アプリや Google クラウド等を効果的に活用し、協働的な学びの充実を図ることにより、児童生徒の資質・能力を育成する。

②児童生徒の情報活用能力の向上

1人1台端末を効果的に利用するために、情報活用能力育成ツール等を導入し、家庭学習の時間にも児童生徒自身が主体的にタイピングや情報リテラシーのスキルを習得できる環境を整えていく。さらに、ゲーム障害・ネット依存などに関わる情報モラル教育を通し、情報を主体的かつ適切に取り扱い、責任ある行動をとれるようにする等の情報活用能力を身に付ける。

③家庭学習の充実

日常的な端末持ち帰りにより端末活用の機会・用途を拡大し、長期休業時も含む、家庭学習と合わせた効果的な学習活動の充実を図る。また、児童生徒が自らの学びを調整し、粘り強く取り組むことを自覚することができる。

2. GIGA 第1期の総括

横浜市では、令和2年度より GIGA スクール構想を推進し、すべての市立小中学校において1人1台の学習者用端末と高速大容量ネットワークを整備した。これにより、授業や校務における ICT 活用が進み、児童生徒が端末を日常的に利用できる学習環境が整った。

授業における ICT 活用は大きな進展を見せ、児童生徒は調べ学習や情報整理、発表活動で端末を活用している。また、クラウドを用いた共同編集やオンラインでの意見交換が始まりつつあり、協働的な学びを促進する基盤が整えられた。これにより、児童生徒の学習意欲や自己調整力の向上が見られ、さらなる発展が期待される。

教員に対しても ICT 活用に関する研修が計画的に実施され、ICT 支援員の配置を通じて、校内での ICT 活用をサポートしている。支援員の役割は、教員が授業で ICT を効果的に活用できるよう技術面で支援することで、学校間の ICT 活用の差を縮めることにも寄与している。

一方で、ネットワークの不具合や端末の故障対応が課題として浮上している。ネットワークの遅延や端末の修繕期間中に予備機が不足する問題もあり、第 2 期に向けてはこれらの課題を解決するための体制整備が求められている。特に、修繕期間中の代替機の確保やネットワーク環境のさらなる改善が急務となっている。

今後、横浜市はこれらの課題に対応しながら、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みをさらに進め、児童生徒一人ひとりの学びをより充実させていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

教育課程研究委員会等において、様々な場面で ICT や学習支援システムの活用等や好事例を発信し、さらなる活用を推進していく。また、教科等の学習を通じた教員の ICT 活用指導力向上に資する研修等を各教科等で年 1 回以上、計画的に実施する。

端末持ち帰り時の学習については、ロイロノート・Google Classroomでの教員からの課題の配信、予習復習・委員会活動等課外活動の取り組みなどを中心に関係課室が連携して進める。また、端末持ち帰りを実践している学校の実践報告の場を設定（ICT 活用推進研修）し、他校での取組を生かして自校での取組につなげていく。

令和 7 年度も文部科学省のデジタル教科書実証事業の動向を注視し、引き続き参加していく。また、指導者用デジタル教科書について、中学校は令和 7 年度から全教科で導入できるよう検討中であり、学習者用、指導者用ともに、デジタル教科書の効果的な活用方法について検討し、研修等を通じて活用を推進していく。